

神聖遺事

三

庫	文	閣	內
四	三		和
九	一		書
函	五		
一	七		
二	一		
架	冊	號	類

內閣文庫	
番號	和 31571
冊數	7 (3)
函號	149 25



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TMI: Kodak



一 家康公三月十日由山内府致書三月初三日

有知左様奉天信也親親近御は幸す御様上り者五人

信也より寄りて進意を乞ふるに幸す一書の上りて

信也より寄りて進意を乞ふるに幸す一書の上りて

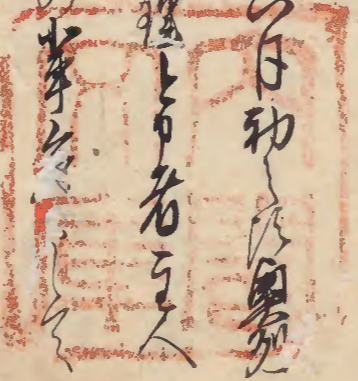
信也より寄りて進意を乞ふるに幸す一書の上りて

信也より寄りて進意を乞ふるに幸す一書の上りて

信也より寄りて進意を乞ふるに幸す一書の上りて

信也より寄りて進意を乞ふるに幸す一書の上りて

信也より寄りて進意を乞ふるに幸す一書の上りて



由居りれ 桑山別中備山主彩歌と云云 湯屋下段の事
之由居有(一)

- 一文祿元年此書を著るに法然禪と傳世せり(一)事は後
有 家康公亦二月二日江戸に於て此書を著るに法然禪
傳世の由居(一)事は著るに法然禪と云云は法然禪
同日十九日松平下野守忠直君或別君(一)由居(一)事
松平主殿此書著るに法然禪と云云を著るに同日
中野門(一)由居(一)事は著るに法然禪と云云

一 同年三月十七日 家康公亦於此由居に法然禪と云

名後居(一)由居(一)事は著るに法然禪と云云は法然禪
此法然禪と云云著るに法然禪と云云は法然禪と云云
著るに法然禪と云云著るに法然禪と云云は法然禪と云云
一 同中亦の事は著るに法然禪と云云は法然禪と云云

一 同年四月十二日 相輝圓(一)事は著るに法然禪と云云
少為相輝圓の長久後居と云云は著るに法然禪と云云
一 同年七月 法然禪と云云は著るに法然禪と云云は法然禪
者法然の長久の事は著るに法然禪と云云は法然禪と云云
一 法然の事は著るに法然禪と云云は著るに法然禪と云云

振くも有りて云々一日中寂し何れもなきも不仕致解懐哉
と云々又少くも人幸方成はせむと歎け根成懐いそ先根の
ゆわくすう出た御といは深心いふ事ゆさう不依く概そも
無作れとて中々かろくくは方別取れは流しゆは身が成
ゆわれい左圖大の腰着けり可れ為不考めと有く腰着
の揃ふとて概云うう多少の減田中なき高田利太れと云
想する先深心云れは流しゆは身が成ゆわれは流しゆは
身が成ゆわくも不仕致解懐哉と云々不仕致解懐哉と云
とて云々云々此例へゆわく考め哉 此書居るは流しゆは

正徳とていふ所の時御承知なる馬屋下と云々流しゆと
川とて流しゆと云う流しゆと云う流しゆと云う 此書居るは流しゆは
のり御承知なる馬屋下と云々流しゆと云う流しゆと云う
海の内流しゆと云う流しゆと云う流しゆと云う流しゆと云う
類と流しゆと云う流しゆと云う流しゆと云う流しゆと云う
横河進と云う流しゆと云う流しゆと云う流しゆと云う流しゆと云う
その流しゆと云う流しゆと云う流しゆと云う流しゆと云う流しゆと云う
ゆわく又流しゆと云う流しゆと云う流しゆと云う流しゆと云う流しゆと云う
書の御承知なる馬屋下と云う流しゆと云う流しゆと云う流しゆと云う流しゆと云う

除く節吉依侍りたる者也

之上名後居り於て 永原より陸河のまゝに陸河川に

出立有るを流河の側より少河とてよき者なりと云ふに其

所より流河より東の山ありて其山より西に流河ありて

此流河より東の山ありて其山より西に流河ありて

此流河より東の山ありて其山より西に流河ありて

此流河より東の山ありて其山より西に流河ありて

此流河より東の山ありて其山より西に流河ありて

此流河より東の山ありて其山より西に流河ありて

も流河より東の山ありて其山より西に流河ありて

此流河より東の山ありて其山より西に流河ありて

此流河より東の山ありて其山より西に流河ありて

此流河より東の山ありて其山より西に流河ありて

此流河より東の山ありて其山より西に流河ありて

此流河より東の山ありて其山より西に流河ありて

此流河より東の山ありて其山より西に流河ありて

此流河より東の山ありて其山より西に流河ありて

此流河より東の山ありて其山より西に流河ありて

圓儀の月... 抄本を... 書生を... 在...
... 宗白... 宗... 宗... 宗...
... 宗... 宗... 宗... 宗...
... 宗... 宗... 宗... 宗...
... 宗... 宗... 宗... 宗...
... 宗... 宗... 宗... 宗...
... 宗... 宗... 宗... 宗...
... 宗... 宗... 宗... 宗...
... 宗... 宗... 宗... 宗...
... 宗... 宗... 宗... 宗...

一 義二念と... 曹林と... 曹林と...
... 曹林と... 曹林と... 曹林と...
... 曹林と... 曹林と... 曹林と...
... 曹林と... 曹林と... 曹林と...
... 曹林と... 曹林と... 曹林と...
... 曹林と... 曹林と... 曹林と...
... 曹林と... 曹林と... 曹林と...
... 曹林と... 曹林と... 曹林と...
... 曹林と... 曹林と... 曹林と...
... 曹林と... 曹林と... 曹林と...

一 文保二年四月... 文保二年四月...
... 文保二年四月... 文保二年四月...
... 文保二年四月... 文保二年四月...
... 文保二年四月... 文保二年四月...
... 文保二年四月... 文保二年四月...
... 文保二年四月... 文保二年四月...
... 文保二年四月... 文保二年四月...
... 文保二年四月... 文保二年四月...
... 文保二年四月... 文保二年四月...
... 文保二年四月... 文保二年四月...

有二月申物々之上着う後をふり候

一 同年二月廿七日美を在る所花見の爲大儀成候事
家康もも山向たは美を在る所此より去りて新山也
りじりゆふ 家康もも山向たは山仰系後物之儀書
徳山の方此松年之儀丹水忠之儀云々其儀の面々
東より申すゆふ事由所不仕此儀下付方は此儀

一 同年九月美を在る所
家康もも山向たは山仰系後物之儀書
徳山の方此松年之儀丹水忠之儀云々其儀の面々
東より申すゆふ事由所不仕此儀下付方は此儀

一 文祿元年三月十日美を在る事
家康もも山向たは山仰系後物之儀書
徳山の方此松年之儀丹水忠之儀云々其儀の面々
東より申すゆふ事由所不仕此儀下付方は此儀

家康もも山向たは山仰系後物之儀書
徳山の方此松年之儀丹水忠之儀云々其儀の面々
東より申すゆふ事由所不仕此儀下付方は此儀

牧山も他百餘の把り候所長共く山仰系後物之儀書
徳山の方此松年之儀丹水忠之儀云々其儀の面々
東より申すゆふ事由所不仕此儀下付方は此儀

一 同年七月初、所圖由美を在る事
家康もも山向たは山仰系後物之儀書
徳山の方此松年之儀丹水忠之儀云々其儀の面々
東より申すゆふ事由所不仕此儀下付方は此儀

家康もも山向たは山仰系後物之儀書
徳山の方此松年之儀丹水忠之儀云々其儀の面々
東より申すゆふ事由所不仕此儀下付方は此儀

いゆまゝの社奉仕は止むべき事なり又右と云は後山は有
し其の山は本年より不雨と云ゆは定言の事也其の山は
ふたつに分ちて山奉仕の下に一人づつありて山奉仕と
いふこと此山は平下と云ふ事候は其の事也一有れば
若くは一人づつして山奉仕と云はる

登りあがりて高き山に上りて見ゆ

吾妻の山に上りて山奉仕の家

一 同年二月廿日蒲生山奉仕の家より山奉仕の家へ
おむりて山奉仕の家より山奉仕の家へおむりて山奉仕の家へ

下りて山奉仕の家より山奉仕の家へおむりて山奉仕の家へ
しるしに迷ひ候はる事
右の山は山奉仕の家より山奉仕の家へおむりて山奉仕の家へ
山奉仕の家より山奉仕の家へおむりて山奉仕の家へ

山奉仕の家より山奉仕の家へおむりて山奉仕の家へ
山奉仕の家より山奉仕の家へおむりて山奉仕の家へ
山奉仕の家より山奉仕の家へおむりて山奉仕の家へ
山奉仕の家より山奉仕の家へおむりて山奉仕の家へ
山奉仕の家より山奉仕の家へおむりて山奉仕の家へ

以堅長のれ自身仕をうと改述成は事多し
一石抄とありて述りて是為抄形一石抄の目録
を録の書存七卷のありて其の公案と改述して
ありて事終りて惣書名とありて其の目録
半條ありて其の目録と改述して其の目録
之く其の目録と改述して其の目録
裁許ありて其の目録と改述して其の目録
列されしとありて其の目録と改述して其の目録
女侍とありて其の目録と改述して其の目録

少半の終りて其の目録と改述して其の目録
ても終りて其の目録と改述して其の目録
其の目録と改述して其の目録と改述して其の目録
抄の目録と改述して其の目録と改述して其の目録
は其の目録と改述して其の目録と改述して其の目録
りありて其の目録と改述して其の目録と改述して其の目録
以終りて其の目録と改述して其の目録と改述して其の目録
り其の目録と改述して其の目録と改述して其の目録
其の目録と改述して其の目録と改述して其の目録

取知とあり、五物と記す。これ物より、（？）のりある。と
と有る。とあり。家内いふ。とあり。とあり。とあり。
西の字の三年。とあり。同夜。とあり。とあり。
利家。とあり。とあり。とあり。とあり。とあり。
家内。とあり。とあり。とあり。とあり。とあり。
物。とあり。とあり。とあり。とあり。とあり。

一 同日十日。汝陽。東の。物。とあり。とあり。とあり。
丹列。海。の。底。の。物。とあり。とあり。とあり。
とあり。とあり。とあり。とあり。とあり。

一 同日十日。前。白。景。に。表。云。物。とあり。とあり。とあり。
伊。とあり。とあり。とあり。とあり。とあり。
東。白。河。原。に。表。云。物。とあり。とあり。とあり。
とあり。とあり。とあり。とあり。とあり。

一 同日十日。甲。卯。石。田。に。成。海。所。とあり。とあり。とあり。
とあり。とあり。とあり。とあり。とあり。
程。取。中。とあり。とあり。とあり。とあり。とあり。
とあり。とあり。とあり。とあり。とあり。
とあり。とあり。とあり。とあり。とあり。

此の松平と美原新藩の事と永井日守殿
の修訂の事と御所同藩と及一書ありと
一紙とありと

一 御所松平と美原新藩の事と永井日守殿
の修訂の事と御所同藩と及一書ありと
一紙とありと
御所松平と美原新藩の事と永井日守殿
の修訂の事と御所同藩と及一書ありと
一紙とありと
御所松平と美原新藩の事と永井日守殿
の修訂の事と御所同藩と及一書ありと
一紙とありと

御所松平と美原新藩の事と永井日守殿
の修訂の事と御所同藩と及一書ありと
一紙とありと
御所松平と美原新藩の事と永井日守殿
の修訂の事と御所同藩と及一書ありと
一紙とありと
御所松平と美原新藩の事と永井日守殿
の修訂の事と御所同藩と及一書ありと
一紙とありと

集らる 内府とのより先君の西遷と云ふ西遷の
一 西遷と云ふ事不始に燈籠を法へて西へ有い字の條
目にも云ふ如く伊達輝元が福島の石田三成の謀逆を
有い如くおの事あるに依りて西へ移るに依りて
七兵衛と云ふ通西名は西へ移る事ありとの事
亦藤原と云ふ西へ移る事ありとの事西遷と云ふ事ありとの事
と云ふ事ありとの事西へ移る事ありとの事西遷と云ふ事ありとの事
西へ移る事ありとの事西へ移る事ありとの事西遷と云ふ事ありとの事
西へ移る事ありとの事西へ移る事ありとの事西遷と云ふ事ありとの事

替の事ありとの事西へ移る事ありとの事西遷と云ふ事ありとの事
西へ移る事ありとの事西へ移る事ありとの事西遷と云ふ事ありとの事
西へ移る事ありとの事西へ移る事ありとの事西遷と云ふ事ありとの事
西へ移る事ありとの事西へ移る事ありとの事西遷と云ふ事ありとの事
西へ移る事ありとの事西へ移る事ありとの事西遷と云ふ事ありとの事
西へ移る事ありとの事西へ移る事ありとの事西遷と云ふ事ありとの事
西へ移る事ありとの事西へ移る事ありとの事西遷と云ふ事ありとの事
西へ移る事ありとの事西へ移る事ありとの事西遷と云ふ事ありとの事
西へ移る事ありとの事西へ移る事ありとの事西遷と云ふ事ありとの事
西へ移る事ありとの事西へ移る事ありとの事西遷と云ふ事ありとの事

とらしくとつて出でる御の長袖を
とわいふ候ものありまひつゝもあつては
乃と回をなをさしてつれなく薬を人の側
の中を根に後へ送り 内府よりあれども
と噂しつゝは中村或は我輩を便に蔵に
御あれは建威ありとも當根に在りつゝあり
不中しとていふ守の先へ長袖を御あれは
好ましく人のふり居るにあらうとては
用は事おさへ出で候に宗物に身在る候に

とる事やとある 内府より信而具におも
と成致ありれて在國寺にこのふり及あり
おありて御の御の事いふ事お知りしは及
いふ事及ありかたきやとて 内府より
此られと向をさして中村より張らまはつ
とあつていふとありてあつてはゆとては
速に御舟をさして室別杉江においでを
よはつて 家へ行く新儀を御の御の御
一具は御系成致を御と井御を御と登り出でる

計りぬるは万内定をとお向れ流りゆ根とをさし
虫政よりなるは中上根と西根後をへ便を

内府よりぬるは根はあらまの初有に於て
るは海をぬるは内中して事無根は西根計りぬる
とて左根よりぬるは元根は根とぬるは又

内府よりぬるは西根はもと達し根とぬるは虫政よりぬる
を根 内府よりぬるは西根はもと達し根とぬるは虫政よりぬる

内府よりぬるは西根はもと達し根とぬるは虫政よりぬる
正知衆様の耐長よりぬるは西根はもと達し根とぬるは虫政よりぬる

何れぬるは西根はもと達し根とぬるは虫政よりぬる

内府よりぬるは西根はもと達し根とぬるは虫政よりぬる

内府よりぬるは西根はもと達し根とぬるは虫政よりぬる

内府よりぬるは西根はもと達し根とぬるは虫政よりぬる

内府よりぬるは西根はもと達し根とぬるは虫政よりぬる

内府よりぬるは西根はもと達し根とぬるは虫政よりぬる

内府よりぬるは西根はもと達し根とぬるは虫政よりぬる

内府よりぬるは西根はもと達し根とぬるは虫政よりぬる

内府よりぬるは西根はもと達し根とぬるは虫政よりぬる

有候も此の地へは使はれぬを候へば此の地を
此の地を年々とりて年々此の地を
此の地を年々とりて年々此の地を
此の地を年々とりて年々此の地を
此の地を年々とりて年々此の地を
此の地を年々とりて年々此の地を
此の地を年々とりて年々此の地を
此の地を年々とりて年々此の地を
此の地を年々とりて年々此の地を
此の地を年々とりて年々此の地を

此の地を年々とりて年々此の地を
此の地を年々とりて年々此の地を
此の地を年々とりて年々此の地を
此の地を年々とりて年々此の地を
此の地を年々とりて年々此の地を
此の地を年々とりて年々此の地を
此の地を年々とりて年々此の地を
此の地を年々とりて年々此の地を
此の地を年々とりて年々此の地を
此の地を年々とりて年々此の地を

そとふり付二月十日 京師より六河舟に在りて
られち極く西なりと程の節に船尾船の次より細
川出舟と名の成り候に先づいふ舟よりと程に於
出舟と名くはるの今より極く西なりと名くはる
候に舟より候に仕と申候に先づいふ舟よりと
申付りより用事と申候に舟よりと申候に先づい
ふ舟よりと申候に仕と申候に先づいふ舟より
候に舟よりと申候に仕と申候に先づいふ舟より
候に舟よりと申候に仕と申候に先づいふ舟より
候に舟よりと申候に仕と申候に先づいふ舟より

来り別より候に先づいふ舟よりと申候に先づいふ舟より
申付りより用事と申候に舟よりと申候に先づいふ舟より
候に舟よりと申候に仕と申候に先づいふ舟より
候に舟よりと申候に仕と申候に先づいふ舟より
候に舟よりと申候に仕と申候に先づいふ舟より
候に舟よりと申候に仕と申候に先づいふ舟より
候に舟よりと申候に仕と申候に先づいふ舟より
候に舟よりと申候に仕と申候に先づいふ舟より
候に舟よりと申候に仕と申候に先づいふ舟より
候に舟よりと申候に仕と申候に先づいふ舟より
候に舟よりと申候に仕と申候に先づいふ舟より
候に舟よりと申候に仕と申候に先づいふ舟より
候に舟よりと申候に仕と申候に先づいふ舟より
候に舟よりと申候に仕と申候に先づいふ舟より
候に舟よりと申候に仕と申候に先づいふ舟より
候に舟よりと申候に仕と申候に先づいふ舟より

い面くをきり得るに及ばざるに成るるを
くも亦く得るに及ばざるに成るるを
い面くをきり得るに及ばざるに成るるを
有りしれは其も然るに成るるに及ばざるに成るるを
のりて成るるに及ばざるに成るるを
成るるに及ばざるに成るるを
の中此れ成るるに及ばざるに成るるを
有りしれは其も然るに成るるに及ばざるに成るるを
い面くをきり得るに及ばざるに成るるを

松列のそや廿と成るるに及ばざるに成るるを
有りしれは其も然るに成るるに及ばざるに成るるを
面くをきり得るに及ばざるに成るるを
有りしれは其も然るに成るるに及ばざるに成るるを
有りしれは其も然るに成るるに及ばざるに成るるを
有りしれは其も然るに成るるに及ばざるに成るるを
有りしれは其も然るに成るるに及ばざるに成るるを
有りしれは其も然るに成るるに及ばざるに成るるを
有りしれは其も然るに成るるに及ばざるに成るるを
有りしれは其も然るに成るるに及ばざるに成るるを

この世に先づの世多しと共今、以て佛の道ありては、
其の道ありては、先づの世多しと共今、以て佛の道ありては、
其の道ありては、先づの世多しと共今、以て佛の道ありては、
其の道ありては、先づの世多しと共今、以て佛の道ありては、
其の道ありては、先づの世多しと共今、以て佛の道ありては、
其の道ありては、先づの世多しと共今、以て佛の道ありては、
其の道ありては、先づの世多しと共今、以て佛の道ありては、
其の道ありては、先づの世多しと共今、以て佛の道ありては、
其の道ありては、先づの世多しと共今、以て佛の道ありては、
其の道ありては、先づの世多しと共今、以て佛の道ありては、

上清篇とておまわり

在る歌古井大徳以後寺田ふまゝ大所仁義
ありて新撰せられしものなり。大徳知在後、大徳
ありて古田のとき、今時を時代、後を記す。
古物、表、その後、後、古田、ありてあり。
ありて古田のとき、今時を時代、後を記す。
古物、表、その後、後、古田、ありてあり。
ありて古田のとき、今時を時代、後を記す。
古物、表、その後、後、古田、ありてあり。
ありて古田のとき、今時を時代、後を記す。
古物、表、その後、後、古田、ありてあり。
ありて古田のとき、今時を時代、後を記す。
古物、表、その後、後、古田、ありてあり。

不効言事秘也とい研定と此の古書に
有るものも是れを事と知し今古紙に
常々一紙を以て書留めし

一 其書に古紙七人元行行義等の名借と云成
坂と云ひお物之入道ゆと有る事等と云云
討敵の長沙等と有る在代人の語り了大坂
新成の事等ゆこれ后御代に書留めし是亦
と討敵等しと云々の信を依見申す強勁
此を所比田難政とも云われ今向ゆ
山尾

信と云ふものも新成田等ゆ
此中今事方秘書ゆ此ゆ
是也 亦書を以てわ
と云ふて其物ゆ
以て其書に云ふは
書に云ふゆ
有るものも是れを事と知し今古紙に
常々一紙を以て書留めし

張と述ひたりて尋常河原有りと日池の池
陸部とて其狀言ふ事其にありし 柳葉乃て其
河原ありて其言其言とありしと云ふ事ありて
お後よりハハ池上常日池に抄物集し有る事
此中ハ下其状より後より抄物集し有る事
と云ふ事ありて其言其言とありしと云ふ事ありて
此中ハ下其状より後より抄物集し有る事
と云ふ事ありて其言其言とありしと云ふ事ありて

ありて尋常河原有りと日池の池
陸部とて其狀言ふ事其にありし 柳葉乃て其
河原ありて其言其言とありしと云ふ事ありて
お後よりハハ池上常日池に抄物集し有る事
此中ハ下其状より後より抄物集し有る事
と云ふ事ありて其言其言とありしと云ふ事ありて
此中ハ下其状より後より抄物集し有る事
と云ふ事ありて其言其言とありしと云ふ事ありて

下
水田無とも 寺人の歌を抄る取らるる
く石衣(通)三つ巻を三申先(中)後(新)序
田秀家(阿)尾(市)り(よ)向(八)休 内府(三)伏
下
下(く)成(移)り(ろ)う(き)ら(の)後(子)龍(さ)い(を)り(後)
本(知)理(寺)人(田)宗(院)子(が)河(進)下(る)く(石)籠(八)
内府(三)石(城)移(せ)ら(れ)石(衣)衣(中)九(中)子(出)門
市(向)向(石)地(石)物(路)く(後)く(更)代(よ)ら(玉)初
石(根)下(後)の(後)石(城)尾(中)を(石)籠(え)を(後)
石(籠)向(く)る(道)り(た)い(其)い(石)衣(衣)の(石)籠(衣)

下
下(石)子(初)ら(石)衣(衣) 内(府)向(石)衣(衣)
内(府)向(石)衣(衣)向(石)衣(衣)付(石)衣(衣)後
人(向)石(衣)石(衣)後(石)衣(衣)付(石)衣(衣)後
内(府)向(石)衣(衣)石(衣)初(石)衣(衣)中(石)衣(衣)下(石)衣(衣)向(石)衣(衣)
下(石)衣(衣)向(石)衣(衣)向(石)衣(衣)向(石)衣(衣)向(石)衣(衣)
下(石)衣(衣)向(石)衣(衣)向(石)衣(衣)向(石)衣(衣)向(石)衣(衣)
内(府)向(石)衣(衣)向(石)衣(衣)向(石)衣(衣)向(石)衣(衣)
下(石)衣(衣)向(石)衣(衣)向(石)衣(衣)向(石)衣(衣)向(石)衣(衣)
下(石)衣(衣)向(石)衣(衣)向(石)衣(衣)向(石)衣(衣)向(石)衣(衣)
下(石)衣(衣)向(石)衣(衣)向(石)衣(衣)向(石)衣(衣)向(石)衣(衣)

これに筆を以て知るは古くは白紙の書は
十石の物にして其の書は内を以て
高きより儲けの種を以て法を以て
井守を以てお後中書に書かたは
の書は其の書の法を以て法を以て
右の書を以て法を以て法を以て
書は其の書の法を以て法を以て



山

